

久野康成の

「私なら、こうする！」

非常識な実践経営アドバイス



第22回【情報整理が苦手です。効率的なノートの使い方は？】

【プロフィール】
久野康成(くのやすなり)
公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウス)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。

Question

効果的な手帳術・情報整理術のようなものがあつたら教えてください。私自身、情報整理することがあまり得意ではありません。手帳もいろいろ買って試してみたのですが、続けられなかったためしがありません。インターネットでもまさに情報が氾濫しています。それを効率的に整理できる方法はないでしょうか？ 人それぞれ、合う方法は違うかもしれませんが、メモの取り方など、具体的に久野さんが行われている方法をお聞かせください。

(群馬県 31歳 会社員)

Answer

苦手なら、「こ」は諦めて得意分野を磨くことも

これは、私が最も苦手にする分野ですね。実は、子供の頃からメモやノートを取ったことがないので。黒板の板書はしなないと先生に怒られるので、適当に書いていました。読み返したことはありません。とにかく字が汚く、書くことが好きではありませんでした。大切なことな

ら覚えられる、忘れてしまうのは、重要ではないとどこかで思っているのでしょうか。

こんなことなので、ノートを取らないために大失敗した経験もあります。私が大学1年生の時です。この頃、大学の授業も真面目に出ないだけでなく、もちろん講義メモもとっていませんでした。そんな中で、期末の試験を迎えました。結果は悲惨で、受けた講義の半分強しか単位が

取れなかったのです。この時は
かりはさすがに反省しました。
20年間のツケが回ってきた気が
しました。

そこで、大学2年生になった
とき、真面目に講義にでて、ノー
トを取ったかというと全く逆の
ことをしました。一切、講義に出
なくなりました。私は、このと
き、自分がメモを取れないとい
うことを悟ったのです。であれ
ば、メモを非常に上手にとる人
のノートを見せてもらえばいい
わけです。ただし、何もしないの
にタダで見せてもらうことはで
きません。私は、最も難関の必修
科目であった経済原論のみ、模
範解答を作る約束を友達とし、
他の講義ノートはすべて見せて
もらうことにしました。経済原
論の教授が出す問題が非常に難
しかったため、1対10くらいで
等価交換できる価値があったの
です。結果は、大成功でした。か
なりの単位は、大学2年で修得
できたのです。

人間は、ついつい自分の苦手

なことを克服しようとはしますが、
得意なことではしか人には貢献で
きません。1人で生きているわ
けではないので、すべてのこと
を得意にしようと思わず、得意分
野に時間を集中したほうが良い
のではないかと思っています。

大事なものは情報の整理より、 自分の思考や創造性

そもそもなぜ、情報整理をし
なければいけないのでしょうか？
これは、ナレッジ・マネジ
メントの問題です。ナレッジ・マ
ネジメントには、さまざまな「情
報」を整理し、「知識」に変える段
階と、その知識を応用し、「智慧」
に変え創造性を発揮する段階が
あります。

情報整理術は、この中の最初
の段階である情報から知識に転
換する段階を言います。しかし、
これほどインターネットが発達
し、情報の共有が瞬時に行われ
るようになると、ビジネスでは、
情報格差が利益格差にならなく
なってきました。情報があふれ

る時代だからこそ、創造性がさ
らに重要になってきたのです。

情報を整理することが苦手で
あれば、私のように、この際、整
理すること自体を諦めるのもひ
とつの方法です。そして、創造性
を発揮するところに注力するの
です。創造性を発揮するために
は、物事を体系立てて、自分なり
の考え方を持つ必要があります。
私の場合、自分が思い立った
ことをブログに書くようにして
います。ブログは、考え方をまと
め、発信する上で非常に有効な
ツールです。

もうひとつは、本を書くつも
りで、文章にまとめることも良
い方法です。私は、自分なりの経
営哲学を、「ROA経営」という
タイトルで7年間にわたって書
きたててきました。いつか、これ
を本にしたいと思っていたので
すが、結局本として世の中に出
たときには、計数管理の部分が
削除され、『できる若者は3年で
辞める！』というタイトルに変
わってしまいました。売れそう

なタイトルでなければダメとい
う出版社の意向に従わざるを得
ませんでした。創造性は発揮
できたと思っています。

ひとつ問題なのは、情報整理
や書記の仕事は、いわゆるスタ
ッフ・ワークで若い社員は、会社
の中で必ずやらなくてはいいな
いものです。これが苦手だと会
社では出世できない可能性があ
ります。また、出世できなけれ
ば、創造性を発揮しなければな
らない仕事にも就かせてもらえ
ない可能性もあります。評価は
往々にして将来性より過去の実
績でなされる傾向があります。

というわけで、私は、会社員と
しては全く出世できないタイプ
でした。しかし、会社で出世でき
なくても諦めることはありませ
ん。本心に創造性が発揮できる
ようになれば、自分で新たに会
社を興せばよいのです。

(このコーナーでは、経営に関するよ
ろず相談を読者の皆様から受け付
け、実践的アドバイスとしてお答え
しております)